

現実解めざし技術支援を

欧米先進国に比べ、アジア諸国は石炭火力発電への依存度が高い。だが、中国やインドも決して石炭に固執しているわけではなく、太陽光発電や風力発電の導入が急ピッチで進んでいるのを見逃してはならない。

石炭火力は温暖化ガスの大きな排出源であるとともに、ばい煙による健康被害も無視できない。再生エネに移行したいのはアジアでも同じだが、問題はそのペースとタイミングだ。石炭火力を一気に廃止すれば、経済成長に必要なエネルギーを確保できなくなる。

当面は必要最低限の石炭火力を、温暖化ガスの回収装置などと組み合わせて使い、段階的に廃止するのが現実的だ。コスト面で再生エネの優位性が高まるにつれ、シフトは加速するだろう。技術支援などで日本の果たせる役割は大きい。

（編集委員 安藤淳）